

一 浜に取り残されていた子ガメ
二 四年前、浜に取り残された子ガメを自分の力で助けたくて、ルー
ルを破って保護したものの、世話ができず死なせそうになり、佐
和に助けを求めたとき。

三 一匹だけ浜に取り残された子ガメの状況と、姉が都会に出てい
き、一人で故郷に残された沙月の状況は、頼るものもなく孤独に
たえていたという点で似ていると気付いたから。

四 取り残された子ガメを助けて育て、自分の代わりに広い世界に
出て自由に生きてもらうことが、自分自身の独り立ちにもつな
がるように思えたから。

五 四年前に助けたカメが元気に海を渡って生きていると分かり、
自分の願いは新しい卵にたくさなくても叶っていたと思えたか
ら。

六 故郷の姫ヶ浦を出るかどうか迷っている沙月には、世界中を旅
しながら、気に入った場所であればらく生活するという生き方を
するタイムが自分の故郷についてどんな思いを抱いているのか
興味があったから。

七 アイ
八 十三歳の沙月が、故郷を離れることも故郷に残ることも不安に
思っているのに、生まれたばかりの子ガメたちが、自分たちより
もはるかに大きな波に怯むことなく飛び込み、何が待っている
か分からない大海に旅立っていくことをうらやましく思ったか
ら。

九 故郷や子ガメのことにとらわれず、どこであろうと気に入った
場所で暮らせば良いと沙月に伝えてはげまそうという思い。

十 故郷に責任を感じ、一生をかけて姫ヶ浦を守るべきなのでは
ないかと考えている沙月に対し、より大きな自然のサイクル
や意思の存在を示唆し、自由にすればよいと言ってくれた佐
和の気づかいに感動したから。

十一 (1) 自由気ままに旅をしながら生きていくように見えて、自
分の家族や祖先を忘れず、ふとしたきっかけでルートと
なる場所を訪れる人。

十二 (2) 姫ヶ浦がみんなから忘れられても、後の時代に姫ヶ浦を
愛してくれる人や縁がある人がやってきて守ってくれる
のだから、生まれ故郷だから一生をかけて守る責任があ
ると考えず、たとえ遠くはなれた所に行ったとしても生
まれ育った故郷を大切に思う気持ちを持ち続ければよい
ということ。

十三 a 卷 b 絶好 c 墓地 d 伝承